

<会議記録>

日付：令和8年4月21日	記録者：北部地域障がい者相談支援センター
会議名：令和8年度第1回生活・相談合同部会	
場所：唐津市健康サポートセンターさんて 3階 大会議室	
時間：14:00～15:40	参加者数：52名（内：生活支援部会員28名）
参加関係機関：参加者名簿参照	
内容	
1 会長挨拶	
・役員改選についてR7年度部会長より 新役員について出席者の承認 会長：松籟病院様、副会長：からっと様、まつら会様。 新会長の挨拶 協議会の目的：行政と連携し、既存の仕組みをより良くし、新しい価値を創造する場である。	
2 議題	
(1)今年度の予定について	
①意思決定について：今回の出欠確認における「委任事項」への不同意が0件であったため、欠席者の意見も尊重しつつ、出席者による決定を部会の総意として進めることを確認した。	
②居宅介護算定ルール検討ワーキンググループ(WG)	
・背景：自治体間で算定基準に差異があり、ルールが不明確なため事業継続に影響が出ている事例がある。	
・目的：事例に基づきルールを明確化し、9月に唐津市への要望書として提出する。	
・活動内容：算定ルールの明確化を図り、現場の声を反映させた「要望書」を唐津市へ提出することを目指す。2月に発足し、第1回を3月開催し、第2回を本日部会後開催する。	
③今年度の部会	
・第2回(8月)：移動手段一覧表(可視化)の作成。	
・第3回(11月)：移動支援事業所(移動ボランティア等)を招いた具体的説明会。	
・第4回(2月)：移動手段一覧表の精査、居宅介護ワーキンググループの報告。	
④人材確保の取り組み	
課題：持続可能な支援のためには担い手の確保が急務。令和9年度、より具体的・実践的な課題の擦り合わせを行う予定。	
《これより相談支援部会と合同》	
(2)「ニモ包括(精神障害にも対応した地域包括ケアシステム)」の推進	
・2004年の改革ビジョン以降、入院中心から地域生活支援への移行が加速している。	
・国の方針：厚生労働省の推進事業により、多機関連携による退院促進がさらに強化される。	
・現在、精神疾患の患者数は全国で約576万人に達し、5大疾病の一つとして地域での受け皿作りが急務となっている。	
○令和7年度精神障害者生活支援ネットワーク研修会報告 唐津保健福祉事務所様	
・計3回の研修(精神疾患の理解、当事者からのメッセージ、地域移行支援の事例紹介)を実施。	
・今後も多職種連携を強化し、自分らしく暮らせる地域づくりを推進する。	
(3)「家事の共同実践(見守りの援助)」についての協議 グループワーク(ワールドカフェ方式)	
テーマ：自己紹介、事業所紹介、居宅介護・相談支援に関するアンケート結果の共有。	
目的：事業所間の顔の見える関係性の構築。	
居宅介護の算定や移動支援に関する現場レベルの困りごとの共有。	
閉会	
部会長挨拶：自立支援協議会の根底は「障害の有無に関わらず幸せに暮らせる仕組み作り」であり、今後も部会を越えた連携を深めていくことを確認。	